

は じ め に

昨年の5月頃だったと思うが、南方海域研究センター所長井上晃男教授から藻類を対象としたシンポジウムを企画してはとの話しがあった。最初はそれほど乗り気でなかった私も、話題提供者と考えた梅崎勇（京大）、榎本幸人（神戸大）、鯨坂哲朗（京大）の各先生から快諾を得ることができたので、やっとその気になったと言うのが実情であった。と言うのは、このシンポジウムの性格上藻類と呼ばれる植物が一般の人たちにとって余りにも馴染みがうすいのではと考えたからである。

藻類と呼ばれる植物には、藍藻類、紅藻類、褐藻類、緑藻類などのように比較的大型になる植物から、肉眼では確認できないような微細な植物が数多く含まれ、複雑多岐にわたる植物群の総称である。このような植物群の一体何をシンポジウムで取り上げればいいのか準備段階でかなり苦慮した。藻類の分類学の分野に於ける最近の進歩にはめざましいものがあるが、就中、微細藻類の研究分野で著しい進歩をとげている。従って、これら微細藻類に関する話題をこのシンポジウムに取り入れれないのは時代錯誤も甚だしいと多くの学兄からお叱りを受けるのではとシンポジウムの企画責任者として独り心配したわけであるが、限られた時間内に、しかも限られた人数の話題提供者でシンポジウムを開かざるを得ない状態ではどうしてもこれら微細藻類は今回の企画からは除かざるを得なかった。幸いにも今回話題提供者としてお願いした梅崎、榎本、鯨坂の3名の先生の御専門はそれぞれ藍藻類、緑藻類、褐藻類で、これらに私の専門分野である紅藻類を加えることにより、植物分類学の教科書などに藻類と呼ばれる植物の代表として取り扱われている分類群を一応カバーすることができた。

学会などで開かれるシンポジウムとは違って、藻類の専門家を対象としたものではないので、話しの内容もできるだけ平易に、しかもそれぞれの先生が得られている最新の知見をできるだけ沢山取り入れた、内容のある話題を提供下さるようお願いしたため、各先生方は御苦労されたことと思う。シンポジウムが開かれるまでは一体何人の参加者があるのか皆目検討がつかなかったが、幸いにも、私の予想に反しておもいがけない大勢の教官ならびに学生のみなさんがこのシンポジウムに参加して下さい、また、学外の試験研究機関からの参加者もあり、シンポジウムを企画した一人として喜びに堪えない。

この小冊子はシンポジウム当日の講演を録音したものを若干手直したものをまとめた講演記録である。シンポジウムに参加していない人にも、この小冊子を御一読んでいただければシンポジウムの雰囲気が手にとるようになって頂けるのではないかと考えている。また、藻類の分類学に興味をお持ちの方々には、最近の藻類の分類に関する様々な知見を提供できるのではと考えている。何れにしても、この小冊子が多くの人たちにいささかでもお役に立てばと念じている次第である。

最後に、御多忙の中シンポジウムに参加頂いた大勢の教官、学生の皆様、また話題提供者として快くおひきうけ頂き、講演記録の原稿作成に御協力頂いた梅崎勇、榎本幸人、鯉坂哲朗の各先生、更にシンポジウムの企画に並々ならぬ御尽力を惜しまれなかった井上センター長をはじめとする、南方海域研究センターの皆様にご心から感謝する。

昭和60年11月12日

鹿児島大学理学部系統分類学研究室において

編集者 糸野 洋

目 次

はじめに.....	iii
梅崎 勇：最近の藍藻類の分類の研究.....	1
糸野 洋：紅藻類の雌性生殖器の構造.....	29
鯨坂哲朗：褐藻類の生活史 —特にナガマツモ目について—.....	45
榎本幸人：緑藻類の生活史 —特に多核細胞性海産緑藻の生殖，体形成，生活史について—.....	55
総合討論.....	71